

明るく元気の出る町

平成11年7月1日発行・毎月1日 編集・発行／秋田県東由利町役場企画課

広報

ひがしゆり

HIGASHIYURI

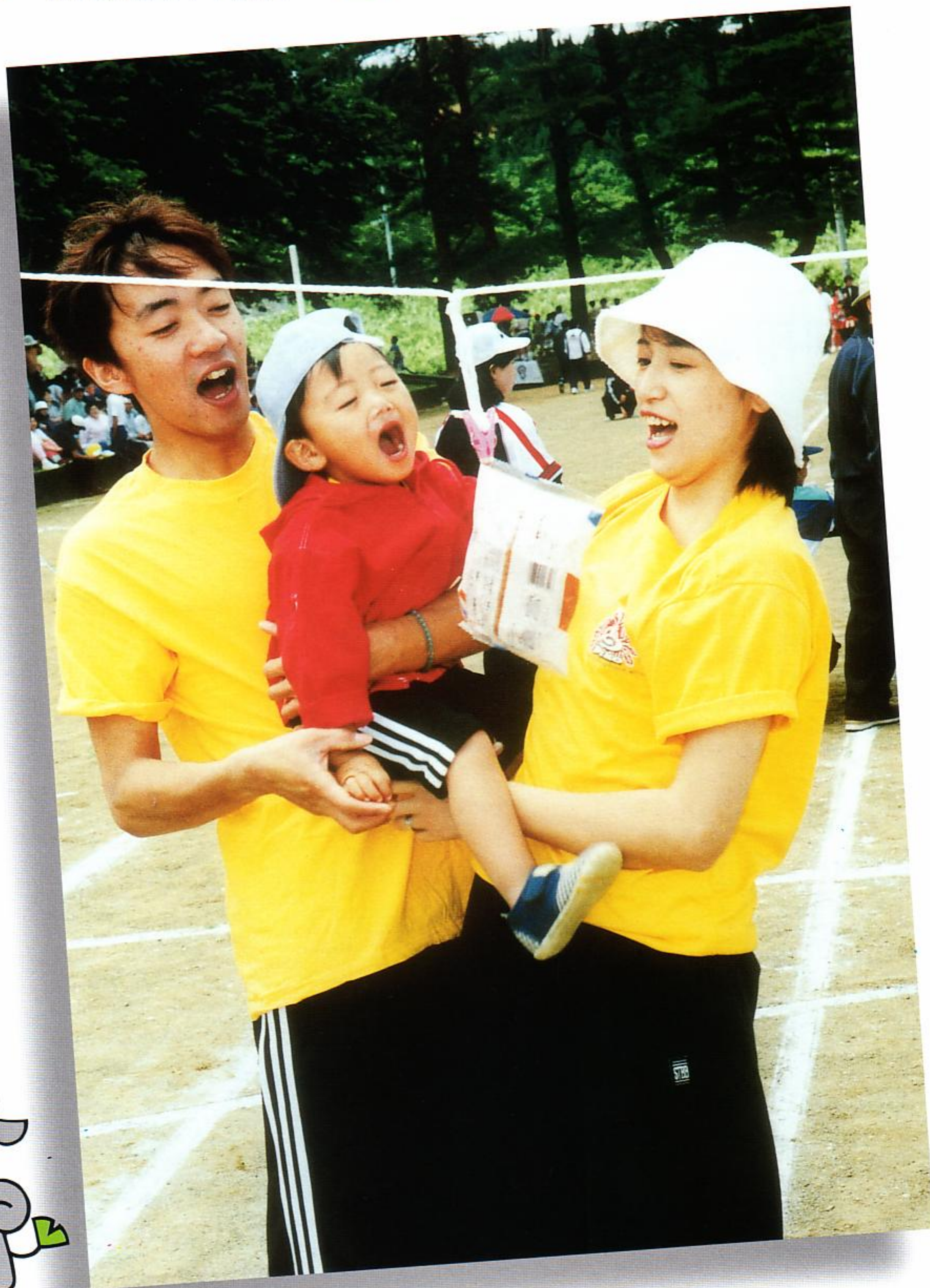
 東由利町

1999

7

NO.532

親子で楽しんだ町スポーツ祭



町イメージ
キャラクター
「モウ太くん」

心身の育成と町民交流に期待

町民プールオープン

二ヶ年にわたって建設工事が行われていた町民プールが完成、いよいよ利用可能になりました。

置されており、利用者間交流を図ることが可能です。特に、可動式屋根が特徴で、雨天時においても快適に水泳が楽しめるようになっています。親子で楽しめるように子ども用に専用コースが設けられています。

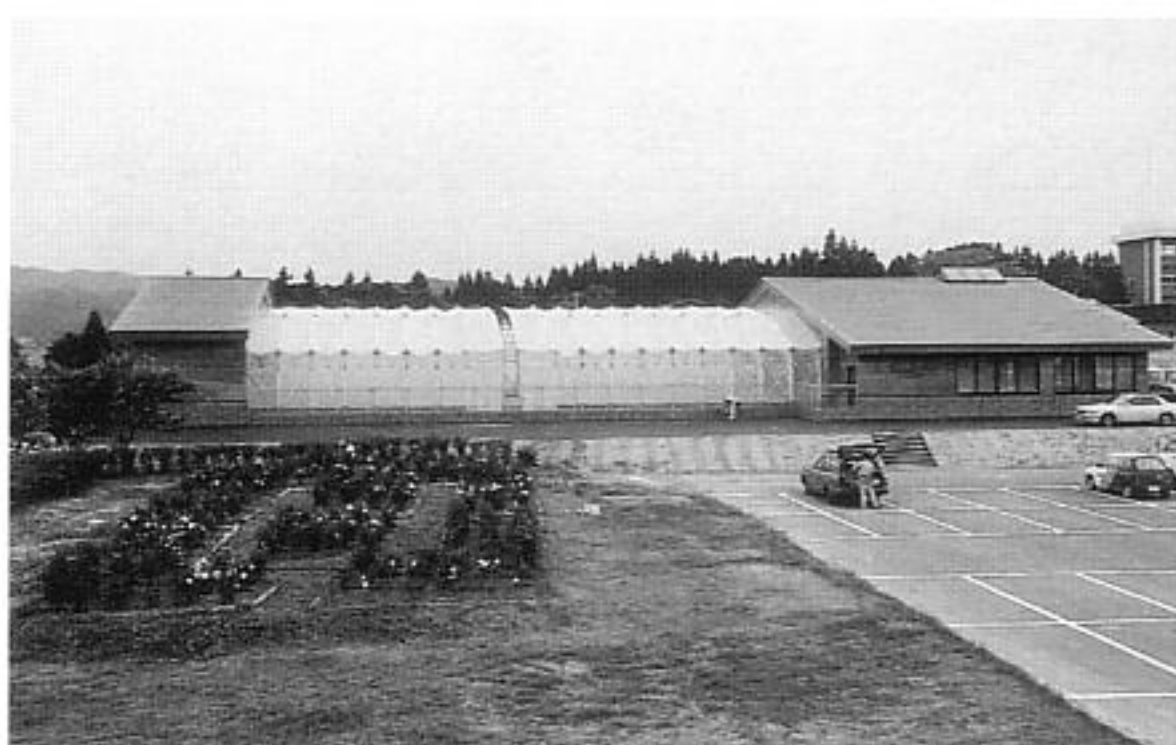
同プールは二十五メートル、六コースのプールが備えられた三二五・二一五六平方メートルの広さの施設です。また、施設には採暖室、談話室、トレーニングルームが設

けられています。七月一日には安全祈願祭と、保育園児、小中学校生を対象にしたオープニングセレモニーが行



▲25メートルのプールを6コース備えている

利用期間は9月20日まで



▲可動式屋根が特徴の町民プール

われました。オープニングセレモニーでは、講師に元オリンピック日本代表、秋田出身長崎宏子さんを迎え、講話会、園児を対象にした水に親しむ教室、小中学校対象の水泳教室、模範泳法などが行われました。参加者は楽しみながら水に親しんでいました。

町民プールは九月二十日まで（ただし月曜日は休館）午前十時から午後八時まで開かれています。なお使用料は次のとおり。

- ▼一回目（午前十時から正午）二一〇円
- ▼二回目（午後一時から午後三時）二一〇円
- ▼三回目（午後三時三十分から午後五時三十分）二一〇円
- ▼四回目（午後六時から午後八時）三三〇円

皆さんの利用を期待します。



▲貫通を祝いあった板戸1号トンネル

板戸1号トンネル貫通式

県が国道一〇七号板戸で掘削を進めていた板戸一号トンネル（延長百七十八メートル）の貫通式が六月二十三日に行われました。当日は、工事関係者五十余名が出席、貫通を祝いました。板戸一号トンネルは今年二月に掘削を開始、約四ヶ月で貫通したもので、一期工区の延長は五百六十メートル、総事業費は約十二億円、うちトンネル工事分は約八億円、平成十二年度の開通をめざしているものです。なお、板戸工区の全体計画は延長が約一・二キロ、全線開通にはさらにトンネル、橋りょう工事等が行われる予定です。

当日の貫通式では、由利土木事務所三浦昭男所長らが発破に点火、爆音とともにトンネルが貫通しました。万歳三唱後、県、工事関係者、小松久男助役、阿部剛議会議長、梅津栄一議会副議長らが通り初めの儀を行いました。またみこし、鏡開きが貫通式に華を添えました。同区間は、「冬場の難所」として交通の妨げになっている区間だけに、早期の板戸工区全面改良に期待がかかります。



▲関係者による鏡開きの儀がトンネル坑内で行われた

発破の音山々に響く



▲あたたかい雰囲気の施設が完成



▲玄関正面にオリジナルのアートレリーフ



▲プール壁面に童話作家高橋宏幸先生のイラスト

菊地邦彦さんの作品 特賞に輝く

第四十一回県美術展覧会で、菊地邦彦さんの彫刻作品「恵風」が特賞・秋田県知事賞を受賞されました。

この県展は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書道、写真、デザインの七部門からなる公募展。今回二千百三十一名の応募があり、最も優れた賞である特選には七部門で十四点が選ばれ、菊地さんの彫刻もその中の一点として選ばれたものです。

なお、七月一日（木）七日（水）まで、秋田市アトリオンで同作品をはじめ入選以上の作品が展示されます。

県植樹祭 盛会に終わる

第五回 議会定例会

町長行政報告

(二部抜粋)

町民あげての植樹祭

盛会に終わる

五月十三日の植樹祭は好天に恵まれ、予想を上回る千六百人の参加を得て終了できました。

全県規模の行事を滞りなく実施できたこと、議会をはじめ、町民各層あげてのご協力を得られ盛会だったことは町の誇りです。

地域振興券

換金率は六八パーセント

去る三月十日に交付した地域振興券は千三百九十人分(二千七百八十万円)でありました。

六十五歳以上の一部に制度上から生じる不公平感の不満はありましたが、交付初日から利用されるなど、まずは喜ばれたところであります。五月末の振興券換金率は六八%となっております。

第五回議会定例会は六月九日招集され、阿部幸悦町長の行政報告、三議員の一般質問の後、専決処分一件を承認、平成十一年度東由利町一般会計補正予算案を上程し、陳情など各委員会に付託しました。

十一日に本会議を再開し、平成十一年度東由利町一般会計補正予算案など十議案を原案通り可決し、閉会しました。

行政報告の中で阿部幸悦町長は「廃棄物処理法が一部改正され、農業者の責任が明確になる。運営主体をJAとした農業用廃びニール処理場を吉野地区に建設したい」などと述べました。

東北電力出羽幹線工事の着工が先送りに

東北電力の設備投資計画が従来の年間四千五百億円程度から三千万億円程度に大幅抑制、東北電力の送電線、出羽幹線敷設工事計画の変更を余儀なくされた旨、このほど同社から明らかにされました。

着工予定が平成十五年ころ、運用開始予定が同十八年ころと先送りになったほか、設計電圧を五十万ボルトから二十七万五千ボルトに変更、これに伴う鉄塔規模の縮小を図るなどコスト低減策が選択されたということです。

工事に伴う町内景気への刺激や固定資産となる鉄塔からの税収を期待、可能な限り早期の着工要望を改めて行なったところです。

介護保険事業の広域的取り組み本格的に進行中

本荘由利広域市町村圏組合においては、本年の四月一日から職員二人を本荘市と本町から派遣、準備事務を行っております。六月一日には広域に介護保険課が設けられ、派遣職員プラス三人が配属され、計五人が介護保険業務を本格的陣容で行っております。

広域での主な仕事は、十月からの介護認定審査会委員委嘱と、保険料算定の基となる介護保険事業計画策定の二つです。

認定審査会の委員委嘱については、全部で七十人以上としております。ただし、認定審査会の一チームは七人から八人で全部で七チーム構成を考えており、町からは

二人の委員が予定されています。また、介護保険事業計画策定委員についても町からは二人が予定されています。

その他、コンピュータの設置、ソフト開発、保険給付等様々な膨大な事務について市町職員と協議を行いながら進めていくこととしております。

町建設業協会より「山荘八塩」施設の寄付うける

町建設業協会から、同協会が当初従業員の研修施設とする目的で八塩いこいの森の一面に建設したログハウス風の建物「山荘八塩」について、五月十五日に寄付申し出があり、これを受けることにしました。

町内外の多くの皆さんから、

研修や親睦交流などで活用していただけると期待しています。

「げんき券」好評
身体障害者の対象年齢引き下げ

四月一日から「湯楽里券」を「げんき券」と名称を変え、また年齢要件を七十五歳から七十歳へ引き下げました。大変好評であり、さらに六月一日から身体障害者の方には、年齢をさらに五歳引き下げ六十五歳からといたしました。

今年の減反配分は
三〇・五パーセントに

生産調整面積は三五五ヘクタール（加工用米一八・九ヘクタール）で、配分率は三〇・五％の前年なみで各戸に配分しています。

農業用廃ビニールの処理場
吉野地区に設置

廃棄物処理法の一部改正により、マニフェスト（産業廃棄物管理票）制度が導入され、農業者の責任が明確になります。それに伴い「町農業用廃プラスチック適正処理推進委員会」を五月十八日開催、今後の方針を確認しました。

処理場は吉野地区に設置、運営主体をJAとし農家の協力をいたしながら実施する予定です。

一般質問

（一部抜粋）

中西蔵之助議員

■新農業基本法の各施策をどのように行なうかの考えを
□認定農業者を中核にした新たな農業振興を期待するとともに、町各施策の充実を図ってきたい。

■介護保険について①受け入れ体制は②新ゴールドプランとの関係は③保険料とサービスは④認定委員構成は

□①福祉課、社協を最前線に、東光苑、介護支援センターなどが一体になった展開を考える②介護保険と連動した形で進めたい③保険料は同じだが各町でサービスのバラツキが考えられる④町からは二名ほどと考えている。

■老方流雪溝の早期改良を

□水量不足等の状況は分かっている。将来的に水量確保が必要と思うが、県とも調整しトラブルが少ない方法論を考えたい。

■寺田農村公園の整備促進を

□多少の時間をいただくとともに地元との協力も願いたい。

■お食事処やしお、消費税内税にできないか

□消費税とわかるようにとの指

導もあり、なかなか難しい。
■町独自のダイオキシン規制条例制定を

□上位法が必要はない。町内の工場については保健所、町の指導も考えている。

■茂沢砕石場へ往復する大型車が危険でないか。

□三年毎の契約が締結されており、安全には細心の注意を図っている。三ツ森山線が完成すればそちらも利用できる。

工藤実議員

■畜産農家の環境整備のために堆肥処理施設の建設を

□将来的には建設すべき施設。平成十三年ころをめどにできればと考えている。

■産地間競争に生き残るために有機農業への取り組みを

□一つの方向性ではあるが、生産者と消費者の思いが違ふこともあり、経済性からすると疑問が残る。議論を重ねて行きたい。

■町の各種祝い金を現金支給から商品券にできないか

□商品券は考えていないが、現金支給についても議論がある。検討課題としたい。

■廃車の投棄防止のため条例制定の考えは

□条例ではなく行政的な指導を考えている。

■高校生のバス通学費、下宿代に支援の考えは
□難しいのではない。現在は奨学金という形で対応、支援している。

■町民プールオープンを祝い、有名選手を迎え水泳教室を

□子供たちによい思い出をと考えている。楽しみにしていたければ。

小野健議員

■新ガイドライン法は地方自治法を侵害する法ではないか。首長としての見解を願いたい

□それぞれの見解があり、様々な有識者の議論の結果と解釈している。自国を守るといふ決意の上での法だと考える。

■介護保険制度実施まで一年。様々な問題をかかえているが、進行状況など大丈夫か

□町民に対する説明が必要である。今後、全町十二ヶ所で説明会を実施する予定。心配はあるが他町村にひけをとらないような、施策を考えていく。

■農業破壊が進んでいる中、農業を守るのは行政の重要な仕事。できるかぎりの施策を

□われわれができるかぎりのことをしたい。それが町農業の発展につながると思う。ご指導を願いたい。

議決報告（一部抜粋）

●議案第一号 東由利町民プール設置条例の全部を改正する条例について
新設される町民プールにかかわる条例を改正したものです。

●議案第二号 東由利町青少年交流施設設置条例の一部を改正する条例について
東由利町青少年交流施設「山荘八塩」が設置されたことに伴い条例を改正したものです。

●議案第四号 平成十一年度一般会計補正予算（第一号）
二億四千二百四十三万八千円の追加で、歳入歳出予算の総額は四十三億九千八百四十三万八千円としたものです。

主なものは山村振興対策事業費（農産物加工施設、高齢者活動施設建設費など）七千五百十六万一千円、林業地域総合整備事業費（土場沢、仲ノ沢線工事など）七千九百二十二万八千円、冬期交通対策費（除雪車購入費）三千九百二十七千円、体育施設費（町民プール建設費）一千二百四十六万六千円等です。

●議案第六号、十号 農業集落排水緊急整備事業工事請負契約の締結について
館合地区農集排水事業に伴う請負契約締結を議決したものです。

畜産堆肥施設の建設は十三年頃メド

いつまでもお元気で長生きを

敬老会・七十歳を祝う会

六月十八日、健康増進センターで平成十一年度敬老会ならびに七十歳を祝う会が行われました。

昨年度から敬老会の対象者を七十三歳以上とし、同時に満七十歳の節目にますますの健康を祈願する「七十歳を祝う会」が行われています。

本年度は七十三歳以上および七十歳の対象者合計九百十二名を招待、全体の四六パーセントの四百十八名の皆さんが元気に出席しました。

式典では阿部幸悦町長が植樹祭、介護保険など町行政についてふれ「課題は無限にあるが私たちの能力は有限。その中でわれわれのできる力を発揮、全

▲418名が元気に式典に出席した

力で福祉行政等に取り組んでいきたい」とあいさつ、長年にわたり町をささえてきたご労苦をねぎらいました。続いて、由利福祉事務所次長、阿部剛議会議長からお祝いのことばがありました。

祝金、記念品贈呈では阿部町長より、福田末造さんはじめ九十歳以上の六名のみなさんに長寿祝い金が、米寿をむかえた畠山マツノさんはじめ七名のみなさんに敬老祝い金



▲町長から記念の肖像写真が贈られた

長寿祝金支給対象者
平成十一年六月三十日現在
(四十一人対象・敬称略)

自治会名	氏名	年齢
須郷	高橋タケヨ	97
大蔵	梅津千代松	97
岩館	佐藤アキ	96
下通	伊東 潔	96
久保	福田 末造	95
田代	大場ハツエ	95
八日町	渡辺ミサコ	94
船蔵	巖石キクヨ	94
上蔵	佐藤与吉郎	93
上通	高橋 三蔵	93
下通	小野ミノコ	93
上通	畠山ミヨノ	93
石高	小松クメヨ	92
館西	藤原 リツ	92
館西	渡辺ツネヨ	92
館西	菊地ユキヨ	92
館新田	佐藤 与吉	92
館宿	畠山サダヨ	92
大蔵	遠藤ナヲミ	92
湯出野	工藤ラエミ	92
八日町	小野ハルノ	92
十二ノ前	小松ミツエ	91
板戸	佐藤イトヨ	91
蔵	石橋重太郎	91
蔵	佐藤キクヨ	91
蔵	阿部テツエ	91



▲和気あいあいとした雰囲気祝宴が行われた

三年畑山千穂さんがそれぞれ
祖父母との交流を中心にした
内容の作文を朗読しました。

式典後の祝宴では、永慶、
みどり両保育園の踊りに顔を
ほころばせ、民謡同好会の民
謡に聞き入っていました。出
席された皆さんは懐かしい思
い出話等に興じていました。

来年から本格的にはじまる
介護保険制度。様々な課題は
ありますが、町では高齢者の
皆さんが住みやすい福祉の町
づくりを進めるべく、着々と
準備を進めています。



▲両保育園児の踊りは好評

大蔵	佐々木宗雄	91
館合新田	八嶋トミエ	91
中蔵	小松正蔵	91
下蔵	阿部ナツオ	91
下蔵	佐藤ハルノ	91
下蔵	佐藤源之助	90
下蔵	畠山忠市郎	90
下蔵	高橋キクエ	90
下蔵	阿部惣助	90
下蔵	佐々木直義	90
下蔵	遠藤トメノ	90
下蔵	石渡義美	90
下蔵	小松カネミ	90
下蔵	小野マツノ	90
下蔵	小野ウメヨ	90

町長日記

平成十一年度敬老会から

平成十一年度の敬老会を
六月十八日に開催いたしま
した。前日は小雨で、天気
の心配をしましたが、皆さ
んのご精進よろしく、暑か
らず寒からずのいい天気に
なりほつとしました。

今年の出席者は四百十八
人でした。昨年からの敬老会
の対象者を七十三歳からと
させてもらい、七十歳を祝

う会と二本立てにいたしま
した。七十歳の皆さんは七
二%の六十九人の出席であ
り、敬老会、七十三歳以上
の皆さんの出席は四三%の
三百四十九人ということに
なりました。広い体育館も
いっぱいになりました。

町の最高齢者は須郷の高
橋タケヨさんの九十七歳で
すが、残念ながらご出席に
はなりません。出席
者の最高齢は下通の福田末
造さんで九十五歳におなり
です。「ゲートボールの現役
選手でもあり、ぜひ百歳の

長寿祝い金をもらってくだ
さい」とお願いいたしまし
た。

あいさつでは「今、町政
も課題はたくさんあります
が順調に進めさせていただ
いております。先日の第五
十回秋田県植樹祭では、わ

が町の自慢の八塩いこいの
森を全県の皆さんに見ても
らうことができました。同
時に五百本の桜も植えてい

ただき、いい財産もできた
ところであります」と植樹
祭にふれた後、「来年からの
介護保険は一市十町で取り

組み、いい仕組みにしてま
いります。人生八十年の時
代、これから地域や家庭
の中心として頑張ってもら
わねばなりません。ますま
すのご壮健を祈念いたしま
す」と申し上げました。

恒例の八十歳記念肖像写
真も皆さんよく撮れており、
往時の美男美女ぶりがうか
がえました。

祝宴では永慶保育園、み
どり保育園の園児の可愛く
笑いを誘う熱演のゆうぎや、
町民謡同好会の皆さんの歌
や踊りを楽しみながら「久

しぶり」と杯を交わしてお
りました。私も皆さんに一
杯お注ぎしたいと思ったの
ですが、四百人あまりとな
るとなかなか全員にお注ぎ
することもできず残念なこ
とでした。

毎回のことですが、この
会のために大難儀してくだ
さる民生児童委員の皆さん
や婦人会の皆さんにも心か
ら感謝をして、今年の敬老
会を終えさせてもらいまし
た。皆さん本当にありがと
うございました。

芸能で農作業の疲れいやす

大さなぶりまつり



▲川崎マサ子さんの民謡に拍手かっさい

六月九日、町主催の大さなぶりまつりが健康増進センターで開催されました。会場には町民の皆さん五百余名が集まり、民謡などの芸能を楽しみました。

さなぶりは本来春の農作業を終えた農家の主人たちが神社などに集まり、秋の五穀豊穡を祈願しながら一献傾けて語り合った行事です。あきたこまちと由利牛の里を標ぼうするわが町では農家の皆さんのご労苦をねぎらう意味もこめてこの大さなぶりまつりを毎年実施しているものです。

今年のさなぶりまつりは「和太鼓と民謡の夕べ」と題し、司会におなじみのあべ十全さんを迎え、



▲RANDO（蘭導）による創作和太鼓演奏

創作和太鼓のRANDO（蘭導）、民謡歌手の川崎マサ子さん、王藤正蔵さん、藤原美幸さん、椿元一さんがそれぞれ優れた芸能の技を披露しました。創作和太鼓演奏は大きな音響と、激しいバチさばきに盛んに拍手がおくられていました。

また、まつりの最後にはもちまきも行われるなど、盛りだくさんの内容に訪れた皆さんはどの顔も大満足でした。この秋の収穫が楽しみです。



▲王藤正蔵さんの民謡熱唱



▲あべ十全さんと藤原美幸さんの民謡トークショー



▲まつりフィナーレは出演者一同によるもちまき



▲日頃の労苦をねぎらいあった

スポーツ通じ交流深める

第6回

町スポーツ祭

トラック&
フィールド



▲全力を発揮「100M競争」



▲新設の「家族でゲット」は好評



▲親子で楽しむ「よいこのじかん」



▲軽々と跳んだ「巾跳び」



▲デッドヒートを展開「リレー」

総合優勝は蔵自治会

六月二十日、快晴のもと台山の町民運動場で第六回東由利町スポーツ祭が開催され、町民の皆さん約一千八百人が徒競走などのスポーツを楽しみました。

このスポーツ祭は年四回行われているもので、ゲートボールなど自治会対抗の種目別大会を通じ最も成績がよかった自治会に優勝杯を贈るものです。同時に自治会内の交流を深める役割も果たしています。

今年初めてのスポーツ祭は、徒競走を中心にしたトラック&フィールドが行われました。

自治会の対抗種目は「ゲートボールレース」、「ニュークリーンアップ作戦」、「ワールドリレー」、「軽く二連発」の四種目。各自治会の団結力と

個性を生かし競技に取り組んでいました。

自治会内だけでなく、世代間、親子間の交流ができるのもこのスポーツ祭の特徴です。親子交流競技のひとつ、今年新設された「家族でゲット」は子供を一人を食べさせる競技。親子で楽しんでいました。

最終競技の四百メートルリレーではそれぞれの分館が男女別に分かれて対抗、ゴール前でデッドヒートになると訪れた皆さんからは盛んな声援が聞かれました。

今回の総合優勝受賞は蔵自治会、それぞれの競技結果は、下記一覧表のとおりです。

次回のスポーツ祭の競技は八月に予定しているゲートボール競技です。

入賞チーム一覧

- 総合成績(自治会)■
- 優勝…蔵 準優勝…下通
- 三位…須郷田 四位…小倉
- 五位…石高 六位…舘西
- 自治会対抗成績■
- 【ゲートボールレース】
- 優勝…寺田 準優勝…津沢
- 三位…下通
- 【ニュークリーンアップ作戦】
- 優勝…舘西 準優勝…岩舘
- 三位…小倉
- 【ワールドリレー】
- 優勝…石高 準優勝…須郷田
- 三位…上里
- 【軽く二連発】
- 優勝…蔵 準優勝…高下屋
- 三位…小倉



▲総合優勝に輝いた蔵自治会

町外研修で町づくりを考える

自治会長研修

六月十七日、平成十一年度の自治会長研修が実施され、自治会長のみならず四十八名が参加、秋田県立大学本荘キャンパス、天鷲村、広域清掃センターなどで研修を行いました。この研修は、自治会長の立場で町づくりを考えようと、毎年行われているもの。

広域清掃センターでは、施設の概要説明と施設見学が行われ、東由利町のゴミの量が平成九年から十年にかけて約一五パーセント増加したこと、施設から排出されるダイオキシンの量は国の基準を大幅に下回っていることなどの説明を受けながら、身近な問題であるゴミ対策に対して真剣に考えていました。

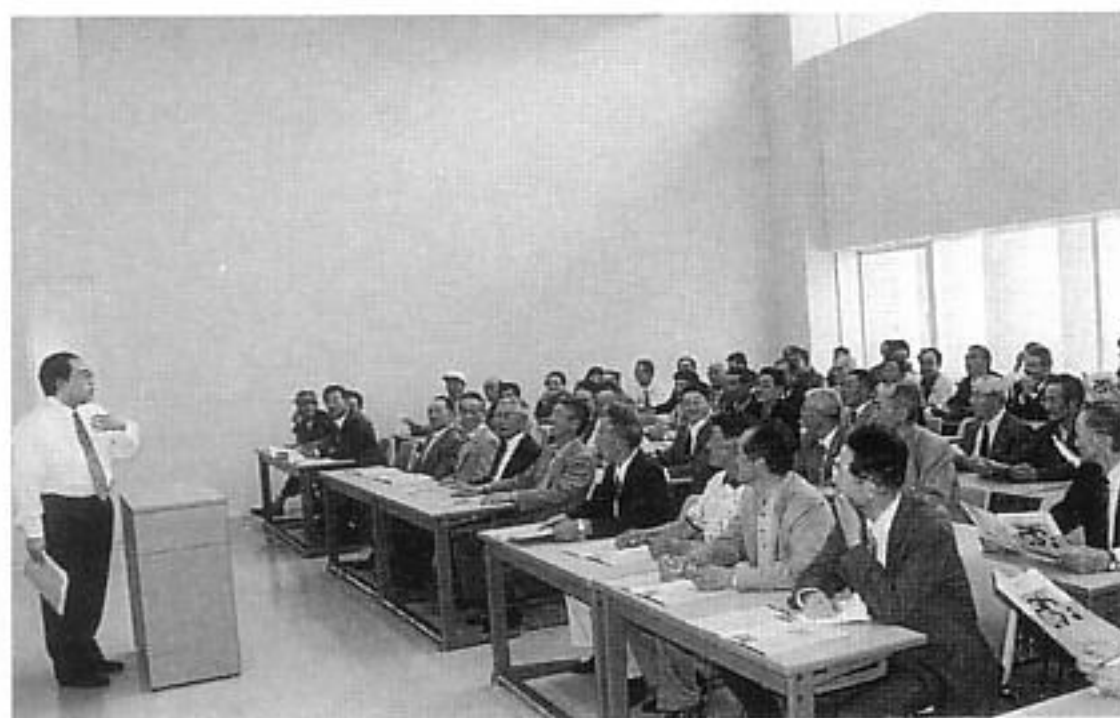
本荘キャンパスでは、初めて足を踏み入れた自治会長も多く、大学の規模などに驚きながら、未来を担う人材育成は手間と時間が必要なのだと実感していました。



▲県立大学本荘キャンパス前で記念撮影



▲広域清掃センターではゴミ処理の現状を確認



▲県立大学で概要説明を受ける自治会長の皆さん

山荘八塩が使用可能に

町建設業協会から寄付された

「山荘八塩」が七月一日より使用可能になりました。使用の申し込みは野鳥の家まで（☎六九一二二〇六）

▼使用できる期間

・毎年四月十五日から十一月十四日まで（休館日・毎週月曜日）

▼使用できる時間

・午前九時から午後五時まで

▼使用料（四時間まで）

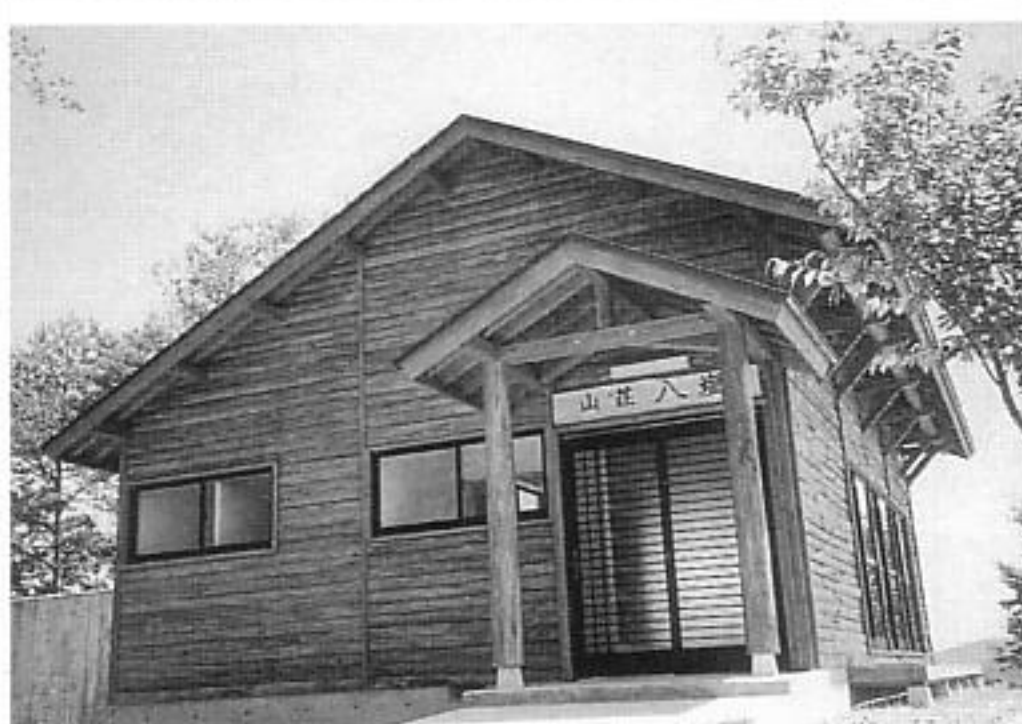
・会議、研修、休憩のための使用
一、〇〇〇円

・宴会または宴会を伴う会議などの使用
二、〇〇〇円

※ただし四時間を超えて使用した場合の使用料は一時間につき使用料の十分の一を加算した額とする。

▼使用上の注意

- ・コップ、皿などは使用者が持参のこと
- ・使用時間は厳守のこと
- ・ゴミは必ず持ち帰ること
- ・使用後は使用者の責任で掃除（トイレ含む）を行うこと
- ・清掃終了後、施錠をして野鳥の家管理人に鍵を返却のこと



▲八塩いこいの森地内につくられた「山荘八塩」

放送大学「教養学部」平成11年度 学生募集

放送大学は、十八歳以上であれば学歴を問わず誰でも入学できる大学です。幅広い分野の三百科目から学べます。また正規の大学ですので、全科履修生として四年以上在学して所定の単位数を習得すれば、学士（教養）の学位を取得できます。授業は

テレビとラジオ（CSデジタル放送）で、毎日朝六時から夜十二時まで放送していますのでマイペースで学習できます。

平成十一年度第二学期出願受付は六月十五日から八月十五日まで受け付けています。

放送大学についての問い合わせは放送大学秋田学習センター
【☎〇一八—八三一—一九九七】までお問い合わせを。

続・畜魂

～つれづれの記

第3話「千頭まつり余話」

鈴木龍太郎・文

と、町長の指示により千頭まつりが開催されている。月日の流れと共に忘れたことも多いが、当時の関係者に教えを乞いつつ、薄れた記憶から番外的な事柄を呼び戻してみた。

▼第一回千頭まつり（平成四年六月五日・会場「野鳥の家」）

「野鳥の家」の前とダム側の空地は焼き肉用コンロを前にした約四百名の人で埋り、足の踏み場もない有様であった。

また、会場前の舞台では、佐藤秀也さん（向田）が入念に設置した音響機器を通して東由利民謡同好会（会長、遠藤真吉さん）の皆さんが美声を聞かせてくれていたが、後半は雨となり充分に披露できず、聴衆も出演者も天を恨むことしきりであった。

東由利の味

まつりのメインである焼き肉の材料は総て東由利産である。野菜は東由利の土に生えたもの。肉は遠藤光昭さん（下小路）の飼育肥育牛の高級肉。これを焼く炭は八塩山麓会（会長、長谷山光さん）が「野鳥の家」の傍にある炭焼小屋で製炭したもの。そして参集者に振る舞ったシチューは高橋重光さん（家ノ下）指導のもとご婦人方（多くは黒瀬地区と高瀬の両和牛研究会のご婦人）が一生懸命調理したもので、まさにパーティーの味は東由利の味であった。

■宴がすんで

野外パーティーには大敵の雨が降ったが、直ちに周到に準備されたビニール屋根が張られた。その下で人々は肉を焼き、盃を傾けていたが、散会近くになるとその場に横になる人、焼きすぎの真っ黒な肉をかじる人、フラフラする人、それを介抱する人、文句をいう人、逃げる人など何処も同じ宴の後の様子となった。その人々を帰りの車に収容し、無事家庭に戻した各和牛組合長さんはいかほど難儀をしたことかと思う。

また、お土産として渡された牛肉を紛失した人々があり、お気の毒であった。指導員日誌には「降雨沛然たるも天幕の下一同にこやかに肉を焼き酒を汲む」とあるが、肉を紛失した人は「にこやか」どころか「無念至極」であったに違いない。

▼第二回千頭まつり（平成六年六月二十八日・会場「健康増進センター、有鄰館」）

■民謡ショー

第一回まつり後、町民より「生産者だけでなく町民誰でも参加させてほしい」との声があり、今回のアトラクションである浅野梅若一行の民謡ショーは健康増進センターで誰でも観覧できることを広く知らせた。当時の「広報ひがしゆり」は「民謡ショーには約五百人が詰めかけ町出身の和子さん、梅清さん、竹美さんたちの熱唱と踊りを満喫した」と報じている。

■詩「黒い瞳」

信賴しきった人間への
うるんだおまえのあの黒い瞳を
俺は忘れない
.....

これは記念式典で披露された高橋典三さん（久保）の愛牛によせた詩「黒い瞳」（さきかけ詩壇入選）の一節である。

出席者はミス黄桜の太田恵美子さんの朗読を聞きながら渡された詩を眼でなぞっていたが、牛と通いあう飼主の心、牛の親子の情愛、そしてやがてやってくる牛との別れの哀しさをしみじみとうたった詩に会場は静まり、なかにはそっと目頭を押える人もいた。

その後、牛の数は少なくなり、千頭まつりはできなくなった。そして人間の命を育て自然環境を守る農、林、漁業など日本の第一次産業はそこに生活する人々の思いとは違う方向へ進んでゆくようだが、果たしてそれでよいものだろうか.....

林業
だより

売れる木

町内のスギ人工林は約五千ヘクタールあり、その六割は二十年から四十年の林で、間伐を必要とする時期にありませんが、間伐を実行していない林が多く見受けられます。昨今の木材価格の低下により採算がとれないなどの理由で間伐をしないのだと思いますが、間伐は将来の生産材の価値を高めるために必要なばかりでなく、間伐の手遅れは、風雪害を受け易くなって、これまでの多額の投資を元も子もなくしてしまいます。

価格のある売れる木の条件は、幹が通直で幹の断面が正円であり、節がなく年輪幅が均一（三ミリ位）で材の色がよいことです。

これを基準にして、初回から二回目の間伐は、採算を考えないで、極端な曲り木や被害木、暴れ木などを間伐します。三回目の間伐では、通直材が多くなり、採算がとれるようになります。町で設置した枝打ちや間伐の展示林を参考に、補助事業を取り入れながら間伐を実行しましょう。

（町林業懇話会会長 佐藤恒悦氏）

東由利・成立

区分	頭数	平均体重	平均価格	Kg当単価
去勢	23	301kg	394,480	1,234
雌	22	289kg	335,570	1,099
合計	45	295kg	365,680	1,158

●最高金額 去勢 554,400 北国7の8 益美 福谷1
●最高金額 雌 536,550 北国7の8 安美金 賢晴

六月家畜市場

木材共販市況

径級	単価（石）	備考
直材30cm上	-円	
24~28cm	5,100円	
14~22cm	5,060円	
13cm下	2,720円	
曲り材	2,000~2,700円	

（平成十一年六月・平均価格）
量産工場が今後の出材減を見越して手当てに入り、14から22cm上はほぼ完売で87%の好落札率。単価もわずかながら上昇してきているが、依然製品市況が低迷しており先行き不透明。



▲児童たちによる生物調査が行われた

「見慣れた川に住む見慣れぬ生物を見つけよう」と毎年八塩小学校で行われている「水辺の教室」。この教室は同校のふさと学習の一環として四年生以上の児童が参加する恒例の行事です。

六月十五日、三十度を超える中、沖田橋付近の河原で六十余名が参加、川底の石の下に住む虫や、泳いでいる生物を網ですくいルーペで見ると興味深く観察していました。児童たちは歓声をあげながら自然の豊かさを実感していました。

八塩小学校 水辺の教室

見慣れた川で意外な発見



▲町に対し大台地区の皆さんの率直な意見

六月十四日、旧大台分校で毎年恒例の大台地区座談会が開かれ、自治会関係者の皆さん、町長、町幹部など三十余名が出席しました。

阿部町長の町政報告、自治会の要望事項、意見交換など活発な話し合いが行なわれ「会を利用して本音で地区の状況を語りたい」と、思いあふれる充実した会になりました。

町では、地区の率直な意見を町政に反映をと地区座談会を逐次行なっています。ご希望の自治会は役場企画課までお申し込みください。

大台地区座談会

本音で語った自治会の状況



▲熱が入った訓練大会

大雨による河川増水、堤防決壊などに備え、水防技術の向上と消防団員の士気高揚を目的に毎年行われている本荘由利地区水防訓練大会。今年は六月十二日に、本荘市本荘ボートプラザアクアパル裏の子吉川岸で行われました。

当日、本荘由利十一市町の水防団員三百九十余名が水防工法競技に取り組み、積土のう、シート張り、木流し、川倉の四工法の技術を競い合いました。同競技会で東由利町水防団は九チーム中三位と健闘しました。

本荘由利地区水防訓練大会

大いに健闘した水防訓練



▲河川愛護協会員による現場の視察

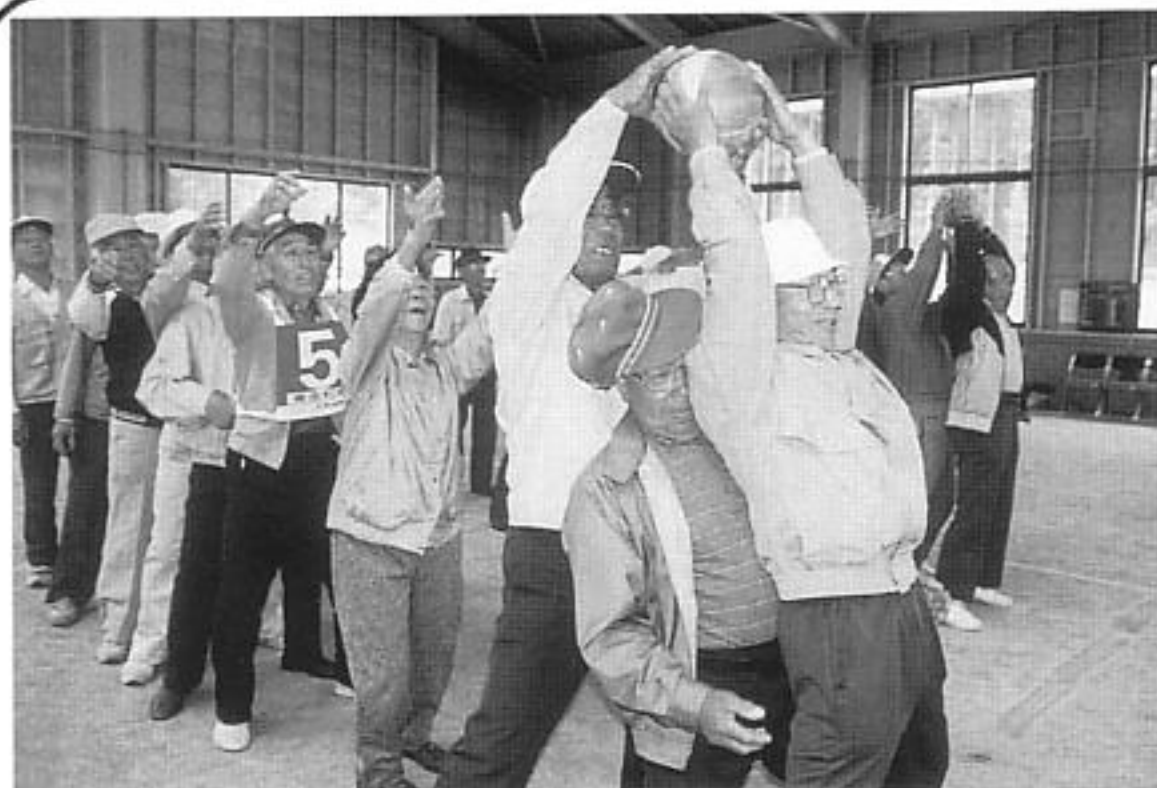
六月三日、有鄰館において平成十一年度東由利町河川愛護協会総会が開かれ、関係者など五十余名が参加、河川をいかに守っていくことができるのか話し合いました。

会議では平成十年度事業報告、平成十一年度事業計画などのほか、会員から日頃感じている率直な意見が提案されました。

総会後、本町と羽後町松山で現場視察が行なわれ、上流の現状、魚道状況を自分の目で確認、あらためて河川の大切さを認識していました。

河川愛護協会総会

河川の大切さを再認識



▲楽しみながら各種の運動に取り組んだ

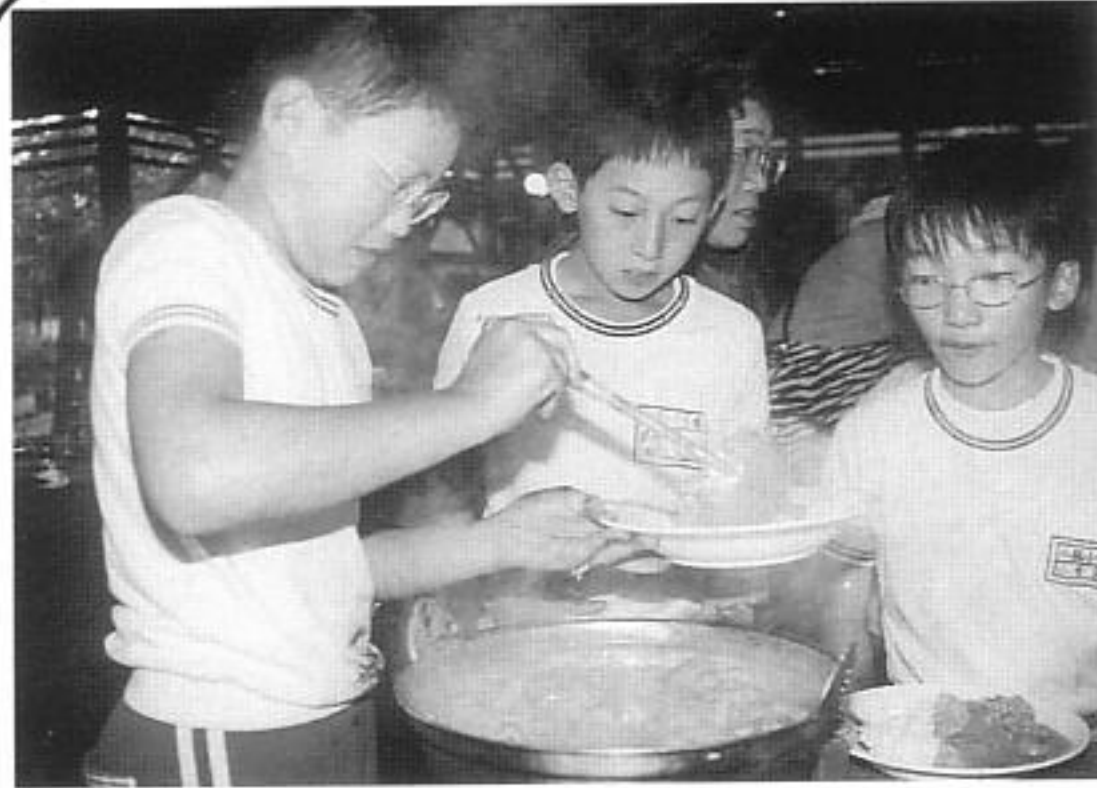
- 関所破り▽老方敬寿会
- ボール送り▽宿紅葉会
- 満杯リレー▽蔵壮寿会
- ゲートボール▽老方A

日頃の運動不足とストレス解消を図り、元気な体で毎日を楽しく過ごすこと、ことぶき大学で行なっている運動会。今年も六月八日、げんき館で百七十三名のことぶき大学生が各種競技に汗を流し、歓声をあげながら運動に興じていました。

なお、各競技の優勝チームは次のとおり。

ことぶき大学運動会

自分のペースで運動楽しむ



▲夕食での盛り付けも楽しい体験

最近の子どもに欠けているといわれる自立心と強調整性を養おうと、毎年行われている少年宿泊交流のつどいが、六月二十四日、二十五日の両日に岩城少年自然の家で行われました。この集いは町内三小学校の五年生を対象にしたもの。四十六人の児童が参加、行事を通じて交流を深めました。

児童たちは追跡ハイキング、野外での夕食、天鷲村見学などをそれぞれ楽しみました。児童たちにとって貴重な思い出になったようでした。

少年宿泊交流のつどい

一泊二日の貴重な思い出に



▲町職員の説明をうける高瀬小四年の皆さん

六月十四日、社会見学の一環として高瀬小学校四年の皆さん二十余名が松沢浄水場を訪ねました。

この社会見学、水道の施設、設備の見学を行うことで日頃何気なく飲んでいる水道の水について理解を深めようとしたものです。児童らは施設を見学しながら設備の説明を受けました。見学後は子供たちは水について率直な疑問が寄せるなど、水の大切さを理解したようです。

今年の夏は水不足が予想されます。水は大切に使いたいものです。

高瀬小学校が浄水場見学

水道について理解深める



▲表彰をうけた佐藤さん（左）阿部さん（右）

五月二十九、三十日の両日、大曲市市民会館において第四十二回秋田県体育指導委員研究大会が行なわれました。この大会は地域の社会体育推進活動の振興を目的に、毎年各地区で体育指導を行なっている方々のために実施されている大会です。

この席上、長年地域で体育指導員として活躍したとして阿部伸喜さん（十二ノ前）、佐藤幸輝さん（葎沢）の二人が十年表彰を受けました。

お二人は表彰に驚きながらも、今後も指導に励みたいと述べていました。

スポーツ指導十年表彰

長年の体育指導が評価

東由利文化クラブ

虫歯
なんてない
も〜ん。

3歳児健診
()内は保護者



高橋大くん
館合新田(重保さん)



高橋鈴香ちゃん
新町(孝紀さん)



高橋はるちゃん
宇戸坂(勝義さん)



長山芽生ちゃん
大吹川(賢さん)



歳時記 雲海

最近では登山ブームなので、雲海と聞くと、山の頂上に立って眺めた雄大な風景を思いだして、今年の夏もぜひ見たいと思う方も多いことでしょう。

雲海というのは、二千メートル以上くらの高い山から見ると、雲が海のようにいっぱい広がった風景のことです。高層雲が一面に広がり、その上が平ら、または波立つようになって海のように見えるのです。

雲海は夏の季語になっていますが、夏は登山しやすい季節で、この現象を見ることが多いからでしょう。

よう。しかし、雲海を詠んだ句は少ないようです。昔はレジャーより、信仰のために山に登る人が多く、一句詠むという余裕がなかったのでしょうか。現在は登山道、登山自動車道などが整備され、ロープウェイやケーブルカーも利用できる、昔に比べて山頂近くまで行くことは容易であることを思えば、隔世の感を覚えます。

登山に限らず、夏は野外活動のベストシーズン。この機会にもっと自然に親しみたいものです。



東由利の文芸

竹筒に香る一輪花菖蒲
草刈女問えば予報を晴と云ふ
白菖蒲たそがれてより色極む
あいの風しなやかに牧わたりゆく
田植えすみ農機具洗うお隣も
万緑を写す湖波平ら
無口にて工事の手旗汗光る
干草と紛うぜんまい山の湯路
葉桜の山湖一枚暮なじむ

(せせらぎ句会)
湯出野 佐藤 正義
蔵 阿部 澄子
五海保 嶽石 レイ
中通 小松順之助
湯出野 小松 徳蔵
蔵新田 小笠原亮子
小倉 遠藤トミ子
横小路 小松 丈介
時雨山 吉川 葉子

泥くささ代えた積りの更衣
緑蔭の外科室に掲ぐ「鬼手慈心」
耳もとに夏の蚊何を告げに來し
ただ一輪ひらく菖蒲を供花に剪る
初郭公一番風呂に願しづめ
新樹光除幕の済みしブロンズ像
星涼し指をしゃぶりて寝落つ子に
湖の水満ちて葉桜ゆらぎあり
万緑をひとりじめして畑昼餉
箱舟の揺れかすかなる草詰み
夜蛙に聳されつ背戸閉めており
桐の花色づきてより雨催
淡し影蒼しと思う白牡丹

蔵新田 小野 貞子
久保 高橋 典三
高戸屋 小松 敏雄
横小路 宮野源二郎
下小路 小松 女沙
横渡 高橋ヒデ子
家ノ下 小松 正昭
蔵新田 小笠原トミ
上里 小野石路子
船木 大庭臺石閣
舟打場 高橋民治郎
山崎 小松 良子
秋田市 嵯峨 義之

新着本紹介

公民館に新しい本が入荷しました。ご利用ください。

▼恐怖と怪奇名作集▼親子で見ると絵シリーズ▼住井すゑジュニア文学館全六巻▼相田みつと詩とことば全四巻▼愛と勇気をあたえた人びと▼人間と平和を考えた本全三巻▼かこさとしたべものえほん▼草木花歳時記シリーズ全四巻▼梅田俊作の絵本▼世界を変えた六人の企業家▼ときどきわくわくシリーズ全十一巻▼わたしたちの暮らしと情報化社会全五巻▼庭のつくり方

アイドルをさがせ!



かおる
遠藤薫ちゃん(1歳)
お父さん:信弘さん
お母さん:通恵さん
【宇戸坂】

お話し: 通恵さん

名前の由来は「一番上のお兄ちゃん(信吾くん)が見つけてきた名前が良かったのでつけました」

どんなお子さんですか
「女の子なのでしぐさが女の子という感じです。上が二人男の子なのでなおさらです」

チャームポイントは
「ぱっちりした大きな目です」

最近の出来事は
「言葉にならないおしゃべりをするようになりました。そろそろ一人で歩けるようになります」

好きなものは音楽のようで、好きな音楽が流れると踊ります。今は好奇心旺盛な時期なので嫌いなものはまだないようです」

将来の夢は
「やさしい子になってほしいです」



広報への お手紙

五月十八日、東由利町の蔵から「東北自然歩道」に入った。すぐに岩館の大イチョウ。あとは川に沿った田園を縫う気持ちのよい道のひとり歩き。なにか「よき時代の日本のふるさと」を思わせる四囲の趣きである。棚田を抜けて法内の八本杉まで一時間半ほど。そこから先の林道は当日の足ごしらえでは無理と知って引き返すことにした。その復路でのごとである。新処の神社を過ぎてむこう

に野田部落が見えてくるあたりで、自転車の女子高校生とおぼしい人影と出会った。いや、出会ったというのではなく声をかけられて気付いたのである。「さようならあー澄んだひと声を残して自転車ですれちがった。私もうろたえて、もがもがと同じことばを返し、足をとめて見送った。(午後一時半過ぎのこと) 村や町の歩き旅をしていると下校の小学生から挨拶を受けることはままある。だが、今日のそれはまったく私の負けである。虚を衝かれたともいえるべきものであった。まだこんな少女がいたのか・・・

この日の爽やかな空のように、左手に望む豊かな八塩山のように、濃淡の緑の輝く遠近の風景のように、やがて私の老いた胸にも晴れやかなものが満ちてくるのを覚えていた。この道も長く私の心に残る道となろう。この町の名もその昔の村の名とともに忘れ難からう。それにしても、あの後ろ姿に「お気をつけて」と声を加えてあげる心の余裕のなかったことが悔やまれてならない。

どおりには歩けず、まして空っ腹の子供の足はなおさらのことです。それでも、ようやく途中の朴の木清水というところまで来た親子は、冷たい水でのどをうるおすのでした。ろくに喰べていないお腹に水は心地よくしみこんで、とてもおいしく父親の作ってくれた露の葉っぱのひしゃくでなん杯もなん杯も飲むのでした。

供は、あたりを見ても父親がいないので、大きな声で泣きながら父親を呼び続けました。「・・・までえ・・・までえ・・・」いくら呼んでも誰も来てくれませんでした。山のこだまがかえってくるのみです。とうとう泣き疲れた子供は、清水のそばで冷たくなっていたのでした。

ラストマッチ

ラストマッチ

下郷分校野球部主将

古関 郁実さん



三年生にとって最後の大会になるかもしれない夏の全国大会県予選が、七月一日から秋田市の八橋球場ではじまります。

五月の末に行われた全県春季大会では持っている力をすべて出し切り、目標である一勝を勝ち取りました。しかしつまらないミスで

失点してしまい、思うように試合を運ぶことができず苦労しました。今はそうしたつまらないミスをなくすため、練習から集中して、一人一人の課題の克服、チームの弱点の強化を目指し毎日厳しい練習を積んでいます。練習でできないことは試合でできない、練習で声を出さないと試合では声が出ないと監督にいわれているので、練習から緊張感を持ってやっています。

夏の大会で対戦するチームは前に一度戦ったことがあるので気は楽ですが、それにつけ込まれないようにしたいと思います。

今のチームで対戦する試合はすべてラストマッチになってしまいます。一試合でも多くこのチームで野球をしたいので、一試合一試合を大事にしていきたいと思っています。そして県予選を突破し、奥羽大会、全国大会に行きたいと思っています。

ふるふと むかしむかし

二五

朴の木の水まで

むかし、天保三年のころより毎年のように不作が続き、村々のくらしはどん底におかれておりました。特に天保四年の大凶作は「巳の年のけがじ」と伝えられるほど、もつとも苦しく、山の木の芽、野の根と口に食するものはすべて喰べつくしたということでした。

こうした悲惨さを少しでも救えればと、領主である矢島の殿さまは、城下で一日一晩のお粥を与えることにしました。このことを聞いた多くの村人は、そのお粥をいただくため、茶屋長根を越えていくのでした。

ある貧しい親子がお粥をいただき、城下を目指して出かけました。小さな子供を連れての山道は、思い

そんな鬼のような父親でも可愛い寝顔を見ていると、涙がこぼれてくるのでした。

やがて、水で空っ腹を満たした子供はとうとうと眠りかけていました。が、疲れも手伝ってぐっすり眠ってしまいました。それまで子供の寝顔を見ていた父親は、口べらしのため子供ひとりいなければ案になるだろうと、おそろしい考えをおこし、眠っている子供を置き去りにしようと思っただけです。

供は、あたりを見ても父親がいないので、大きな声で泣きながら父親を呼び続けました。「・・・までえ・・・までえ・・・」いくら呼んでも誰も来てくれませんでした。山のこだまがかえってくるのみです。とうとう泣き疲れた子供は、清水のそばで冷たくなっていたのでした。

その後、この清水のそばを通るごとに、人々の耳に「・・・までえ・・・までえ・・・」という子供の泣きさけぶ声が聞こえたということです。あわれに思う土地の人たちは、子供をねんごろに弔ってあげたのでした。

(文と絵 石渡力造氏)





山地の林中に主に生える多年生のつる草で、緑色の茎には巻きひげがあって他の植物にからみついて伸びます。葉は卵状楕円形で互生し、たての脈が数条あります。春、まだつるを出さない時期にはシュデコといって山菜として賞味します。七月から八月、葉のわきから花茎を伸ばし十五から三十個の淡黄緑色の花をつけます。雌雄異株で、花後雌花は黒色の丸いかたまった実をつけます。

和名シオデは北海道アイヌ語のシュウオンテからきたものといわれています。

郷土の野草

NO.173

シオデ (ユリ科)

文・写真 小松忠正氏

7月▶データ東由利

〈5/1〜/31〉

住民基本台帳人口 () は前月比

■男……………2,521人 (△2)
■女……………2,651人 (△6)
■計……………5,172人 (△8)
■世帯数………1,389戸 (1)

() は1月からの累計

・出生2人(9)・死亡8人(35)
・転入4人(38)・転出6人(71)

■火災出動……………1件 (3)
■救急出動……………14件 (66)
■交通事故……………0件 (3)
・死亡……………0人 (0)
・傷者……………0人 (1)
■飲酒運転……………0人 (1)
■酒気帯び……………0人 (0)

7月の行事予定

- 1 町民プール
オープニングセレモニー
- 11 親子つり大会 (黄桜の里)
- 16 ことぶき大学
- 18 町消防訓練大会
- 20 海の日
- 23 少年自然教室 (八塩)
- 24 東光苑夏祭り
- 25 スポ少野球大会
- 27 町長選挙告示
- 29 高校生ボランティアスクール
(〜30)



ほっとひといき

黄桜まつり、植樹祭を中心にした番組が5月29日にAAB、6月5日にAKTでそれぞれ放送されました。ご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。

放送後、久しぶりに町の姿を見られた、ふるさとを懐かしく思い出したなどの反響があり、とてもうれしい気持ちになりました。

梅雨があげればいよいよ夏本番。テレビで見る東由利町の自然もいいですが、実際に見る町の自然もいいもの。今年の夏は町のよいところを探してみませんか (さ)

戸籍の窓口

(5月21日〜6月20日届出)

●お誕生おめでとう

5/17 遠藤 隆 矢さん (美八子) 新 処

5/24 横山 萌 華さん (慶由美) 向 田

5/28 石綿 輝 さん (裕工) 横 渡

5/29 畑山 葵 さん (紀恵子) 五海保

6/1 遠藤 ありさん (貴浩) 祝 沢

6/3 小野 悠花さん (武志) 下 吹

●ご結婚おめでとう

6/14 佐藤 直人さん (下小屋) 矢島町

●ごめい福をお祈りいたします

6/26 小松 富記さん (67) キエ子・夫・黒 沢

6/30 八嶋耕二郎さん (79) ミネ・夫・五海保

6/4 赤川 菊子さん (68) 正二・妻・横小路

6/7 遠藤 春男さん (63) リエ・夫・小 倉

6/8 阿部 ツヤさん (77) 勝典・母・高戸屋

6/9 渡辺千代子さん (82) 房吉・妻・田 代



竹美さん、小椋佳さんの舞台に出演

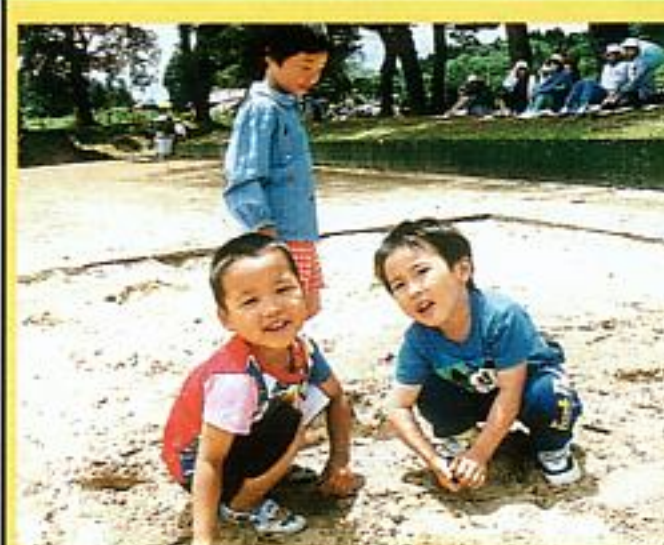
▲竹美さんと小椋佳さん (右)

昨年、弟子あがりを終えて一本立ちした浅野竹美さん。現在様々な芸能活動がなされています。七月十五日には、秋田市文化会館大ホールにおいて公演される「歌語り三〜一休恋慕」に出演されます。

この舞台は日本の伝統的世界から新しい歌唱舞台を創造しようとして、シンガーソングライターの小椋佳さんが三年前から企画、演出を行っている「歌語り」です。物語の題材を、南北朝の時代、個性豊かに生き抜いた禅僧「一休和尚」とその愛弟子「墨齋」に求め、彼らを取り巻く人間たちの物語を展開するといふもの。

竹美さんは劇中、羽衣役を演じられます。大きな舞台に挑む彼女に声援をおくりたいものです。

まごころ
社会福祉協議会に小松庄治さん (黒沢) からご芳志が、また広報送付謝礼として、阿部幸子さん (秋田市在住)、小野トモさん (秋田市在住) から金一封が届けられました。ありがとうございました。



今月のスナップ

町民スポーツ祭にて
「ぼくたちつかれたヨ！」